

タスマニア大学語学研修参加報告書

外国語学部英米学科 1 年（参加時）

オーストラリアのタスマニア大学にて語学研修のプログラムに参加してきました。まず、授業についての報告です。授業は少人数制の形態で一クラスあたり 16 人から 20 人ほどの人数構成となっていました。一日 4 時間の授業時間で朝 9 時から昼の 1 時半まで学校で過ごしていました。授業内容は、オーストラリアやタスマニアの自然や歴史について学ぶことが多かったです。具体的に言うと、タスマニアに生息する生物の種類やオーストラリアとタスマニアの関係、イギリス植民地時代に起きた出来事などを学ぶことができました。ほかにも、会話や文章において便利なフレーズや学問的な単語の学習もありました。ただ、座学をするだけではなく、記憶に残りやすいようにゲーム形式で知識をつけることができ多く、楽しんで授業に参加することができました。また、ディスカッションや会話形式で学ぶ機会も多く、授業中に先生から話しかけられたりすることも多々ありました。発音やイントネーションにも触れていて、一つ一つの単語の発音だけでなく、文全体の発音の波を学ぶことができました。ただ、それに対しての授業を設けているわけではなく、プログラム全体を通して練習しました。一つのクラスに対して、二人の先生が担当していました。特に二人の先生に違いがあるといったようなことはありませんでした。どちらも似たように授業をし、似たように接してくれました。今回の参加者は全員日本人で、北九大以外からは京都産業大学、金城大学、神奈川大学から学生が来ていました。私はプログラムに一人で参加しましたが、特に大変な思いをしたということはなく、周りと協力して生活できました。男女比でいうと全体的に女子のほうが多く、男子は少なかったです。また、一年生での参加が非常に少なく、私をあわせて 5 人ほどの参加でした。週に一度、バスで小旅行に行く機会が設けられていました。場所はリッチモンド、ボノロン、ポートアーサーでした。それぞれの楽しみ方があり、お土産を買えたり、歴史を学んだりできてとてもよかったです。また、期間中に何度か現地のタスマニア大学の学生によるアクティビティがありました。そこでは、普段話さないようなほかのクラスの子と話す機会があったり、現地のタスマニア大学の学生との交流の機会があったりしました。そこでおすすめすることは、現地の学生とたくさん話してみることです。私はスリランカ出身の学生とたくさん話をしたのですが、出身地の話やお互いのアクセントとオーストラリアのアクセントについての話など、興味深い会話を英語ですするという経験ができました。教室内では英語のみ使ってよいという決まりで、それは授業中に限らず休憩時間も一緒です。先生も現地の学生も、私が話す内容を頑張って理解してくれたので、正しい英語を話そうとしたりしなくても大丈夫だと思います。

次にホームステイについてです。ホームステイはどこの家庭も大学から少し遠いところが多く、ほとんどの参加者がバスでの通学でした。私は、家から街までバスで行きそこからまた別のバスに乗り換えて通学していました。8 時前に家を出て、9 時前に学校につ

くような感じで、所要時間は約一時間でした。バス停やバスの番号などは登校開始の前日にホストファミリーから説明を受け、実際にその場所に行きました。バスが時間通りにくることはほとんどなく、大体遅れることが多かったのですが、そのあたりの事情は先生方も把握していたので、授業に遅れても怒られることはなく明るく迎えてくれました。ホームステイはとても良かったです。個人的に良かったところは、いろんな場所に連れて行ってもらったことです。期間中はよく犬の散歩について行っていたのですが、時には公園、時にはビーチや山など、ルートにバリエーションがあって楽しかったです。また、ボルダリングに連れて行ってもらったり、果物狩りに行ったりなど、屋外・屋内どちらのアクティビティも充実していました。食事も個人的にはおいしいと思いましたし、いろんな料理を食べることができたので良い経験になったと感じています。私のホームステイ先は大丈夫だったのですが、ほかの参加者の家庭がベーガンだったみたいなので、そういうところは注意して事前アンケートに記入すべきだと感じました。ホストファミリーは同じ年の男の子とお母さんの二人で犬が一匹いました。二人とも、親密に接してくださり、滞在させていただく身としてはとても心地よかったです。ホストファミリーも音楽に興味があり、私の好きなジャンルの曲と一緒に鑑賞したりして楽しかったです。

今回のプログラムを通して英語だけでなく一人で行動することに自信がつけました。私はこの語学研修に一人で参加することになり、タスマニアまで一人で移動しましたが、飛行機の乗り換えなど私ができないと思っていたことが案外難しいものでもないということに気づき、自分の能力自体に自信がつけました。もちろん、英語のほうも上達を実感しており、実際にホストファミリーに私の英語力について聞いたところ、プログラム初期と比べてよくなっているという返事を受け取りました。文化の違いを恐れていたのですが、過ごしていて気になるところがあまりなかったのが良かったです。しかし、ライフスタイルの違いが良くも悪くも大きな違いだと思いました。良いところとしましては、時間厳守ではないこと、仕事のあとにゆっくりする時間があることだと思います。全体的に忙しくしているひとが少ないように感じました。それが現地の人のおおらかな性格や笑顔に表れているのだと推測します。反対に悪いところは、お風呂につかれないう、シャワーを二、三日に一回しか入らないところです。この生活様式は日本人にとっては少し不便なのかもしれません。

今回のプログラムはこの先のプランに大きく影響すると思います。今回、タスマニアの帰りにメルボルンに訪れました。その時、都会であるメルボルンと田舎のタスマニアを勝手に比較してしまったのですが、私にはタスマニアがぴったりだと感じました。将来、メルボルンやシドニーなどのオーストラリアの大都市でワーキングホリデーをしようと思っていたのですが、もう一度タスマニアに戻ってしてもいいのかもしれないと思うほど心地よい土地でした。もともと、オーストラリアでの長期留学やワーキングホリデーを目標としていたので、参考になる情報を知れたことがこの先につながると感じました。また、実際に現地の人と同じような生活を経験することができたのが一番の収穫だと思っています。